

PHOTO BY P.G. BRUNELLI / MROCK



The Vines

メンバー構成はちょっと複雑なんだ。元々のドラマーが本当に辞めたのかどうか、誰も分かってないから

INTERVIEW & PHOTOS : P.G. BRUNELLI / INROCK

メトロポール・ホテルでのインタビューは午後から行われた。にも拘わらず、オーストラリア出身のザ・ヴァインズのリーダー、クレイグ・ニコルズは寝起きそのものといった表情だった。言葉もおぼつかず、話している内容も不明瞭。こういう態度はシャイと呼べるのかもしれないが、しかしバンドのこれまでを振り返る限り、今、目の前にいる男がシャイだとは到底思えない。ファースト・アルバムのリリース、そしてイギリス・ツアーを目前に控えたバンドに対する前評判は、非常に高い。まだまだ“青い”彼は、今起きていることをしっかりと把握しきれていないようであった。

——高校を卒業した後、コピー・バンドから始めたんだよね？

クレイグ・ニコルズ（vo.、g.）：ああ。高校の時からバンドをやろうとは言ってたんだけど、実際にバンドを始めたのは卒業してからだったんだ。人がやらないような、オリジナルなことがしたかった。でもそれが何なのか分からなくって、それで最初の頃のギグは



コピーばかりやってたんだ。ニルヴァーナの曲を3、4曲、それからキンクスの曲もよくやったよ。あとはユー・アム・アイ（ザ・フーに似たオーストラリアの人気バンド。近々6枚目のアルバムをリリースする予定）のカヴァーもやってたね。キンクスは大好きさ。家に20枚以上、アルバムを持ってるよ。

——君達は3人組なの？それとも4人組？どっちなのか、誰も分かってないみたいだけど。

クレイグ：ああ。ショーの半分は3人、残りは4人編成でやってるからね。4人目のメンバー（ライアン・グリフィス、g.）はただの雇われメンバーなんかじゃなくて、俺の仲間なんだ。金が理由じゃなく、曲に一番合うのは何かってことなんだよね。曲に合わせて決めてるから、（3人組なのか、4人組なのか）何とも言えないよ。多分、両方なんだと思うな。

——でもザ・ヴァインズの複雑なところはメンバーの数に限ったことじゃないんだよね。前のドラマーが大の飛行機嫌いだということで、ツアーにはハミッシュが代理で参加しているだろ？

クレイグ：ああ、その通りだよ。ちょっと複雑なんだ。今も元々のドラマーが本当に辞めたのか、そうじゃないのか、誰も分かってないから。ハミッシュ（・ロッサー、ds.）はそんな状況を全然気にしてないよ。昔のドラマー（デイヴィッド・オリフェ）にはしばらくの間、休養が必要でさ、あいつは高校からの友人なんだし、辛抱強く待つつもりではいるよ。

——バンドを仕切ってるのは、曲作り、ヴォーカル、そしてギターを担当している君なのかい？

クレイグ：全てのことに対して大きな発言権を持っていることを考えれば、その質問に対する答えはイエスだね。デイヴ（前ドラマー）がツアーをしたがらないことについては、それは本人の気持ちなんだから、俺がどうこう出来ることではないけど。イヤだって言ってるのを、無理強いすることは出来ないだろ。ロスでのレコーディングの時は、ずっと一緒にいたんだ。言われてるように金が原因じゃない。俺、技術的なことはあまり分かってないんだ。楽譜だって読めないし、でもそんなことは全然気にしてないし、ただプレイしてるだけだ。コードがひとつかふたつしかなくて、その上からシンプルなドラムがかぶさってるだけの曲だって、気持ちよくやれればそれでいい。メジャー・レーベルと契約したこともあって、周りの人間はいろいろ策を練ってるよ。いろんな考えはあるんだろうけど、でも俺達はそんなことに影響されたりはしない。みんなから注目されることはいいけど、でも自然に、何も計画もせずに始まったことだから、今も同じ気持ちでいられるし、バンドでの変化もとても“オーガニック”に受け入れられたんだ。全然問題じゃない。最初はただ曲が書ければ良かったんだ。デモもいっぱい作ったし、アルバムを作ること、曲を書くことしか殆ど頭にはなかった。その頃は世界中をツアーで廻ることに、全然興味がなかったんだ。俺とパトリックは、スタジオでの仕事が好きなんだよ。色々考えることはあるんだよ。いっぱい曲を書いてみても、完成した途端、これじゃダメ、もっと曲を書かなくてはって考えて、それで使わないままの曲がドンドン増えていくんだ。

——君達の曲はすごくシンプルだよね。シングル「ハイリー・イヴォルヴド」も、1分35秒しかないし。

クレイグ：ああ。音楽は神聖なもので、とても言葉で説明出来るようなもんじゃない。でも曲は伝えたいことを手短に伝えるべきだと思ってるからな。

——それだけ神聖な音楽だけど、もし他人からあれこれ指図された場合、君はどうするんだい？

クレイグ：周囲に対してビビったりなんかしてないさ。前のドラマーはそういうことに対して、ちょっと神経質になりすぎてたな。俺もそうだったけど、でもキャピトルと契約を結んだのは、向こうが俺達の音楽を気に入ってくれたからであって、別に向こうは今の俺達を変えようとかはしなかった。俺達は自分達が作りたいと思うアルバムを作り、それを出来るだけ多くの人達に聴いてもらいたいだけなんだ。契約を結んだ時、俺達はそれほど沢山ギグをしてたわけじゃなかったし、ショーをすることに対しても特別な思い入れなんてなかったけど、今はすごく楽しんでプレイしてるよ。特にイギリスではね（現在は本国での知名度がイギリスと比べて低い）。レコーディングの為アメリカに長期滞在もしたし、イギリスでツアーもした。こっちに来る前には、オーストラリアでパブ・ツアーをしたんだけど、まあまあだったよ。実際に俺達が廻ったラジオ局でのプロモーションに対しても、いいリアクションが返ってきてると聞いてるしね。オーストラリアではまだまだこれからだな。1年前、初めて国内をツアーしたんだ。その時「ファクトリー」、「カントリー・ヤード」、「メリー・ジェーン」、「ハイリー・イヴォルヴド」なんかの、8曲分のデモの入ったCDを配ったんだ。今度はちゃんとしたCDをリリースするよ。

——どうして本国と外国とで、それだけ人気に温度差があるんだろう？

クレイグ：偶然だよ。プロデューサーのロブ・シュナップは奥さんが出産したばっかりってこともあって、ロスを離れたがらなかったんだ。俺はとにかくアルバムが作れればそれでいいからと、ロスでのレコーディングにOKした。別にこっちから彼のところへ向かうことになっても、全然構わなかったよ。その時は飛行機に乗るのも全然怖くなかった。逆にすごくワクワクしてたくらいだよ。

——アルバムのレコーディング中、学ぶことが多かったと言ってるけど、学んだことというのはテクニカル的なこと？

クレイグ：いいや。そうじゃないよ。ただ違う場所で、いつもとは違うやり方を経験できたってことが言いたかったんだ。プロセスそのものは、自分達だけでやってたとしても、それほど変わらなかったと思う。曲も沢山あったし（デモは4トラック・マシーンにレコーディングされていた）、違いは自分達以外にも多くの人達が聴いてくれてる中、より設備の整ったスタジオでやれたというだけのことだよ。

——バンド名は君の父親のバンド名、ザ・ヴァインズ（The Vynes）に由来しているそうだね。お父さんもミュージシャンとして成功しているのかい？

クレイグ：いいや、それほどでも。シドニーでしか活動はしてないし、アルバムもインディで1枚リリースしただけだよ。音楽的には何の影響も受けてないんだ。初めてギターを買った時、父親から12曲のバー・ブルースのギターを教えてもらったけど、それ以外は全部独学だよ。俺がバンドを始めたのは、父親の影響を受けたからじゃない。それよりも偶然父親も音楽好きだったって感じだね。俺がミュージシャンになりたいと言った時も、両親と意見が衝突することもなかったよ。父は今でも細々とバンド活動を続けてるよ。もうすでに名前があるのに、改めて新しい名前を考えるなんて面倒くさいってことで、スペルを“I”に変えて、これに決めたんだ。最初の頃は、リシ・カシュという名前でやってたんだ。ビートルズがメディテーションの為に訪れていたインドの地名から取ったんだよ。俺自身、メディテーションなんてやらないけど。テレビを観るだけさ。

——君の家族は裕福なのかい？それともマクドナルドでバイトをしていたのは家計を助けるため？

クレイグ：うちは中流階級だよ。金はあるけど、だからってそれほど裕福ってわけでもない。マクドナルドでバイトをしてたのは、たばこ代が欲しかったからさ。

——ドラマーはツアー嫌いで、君は飛行機嫌い。レコーディング中の6カ月間は、一度もオーストラリアへは戻らなかったんだってね？

クレイグ：ああ。飛行機は大嫌いさ。なんとか飛行中冷静でいようとは努力してるけど。

——飛行機に乗る前はどんなことをして気を紛らわしている？

クレイグ：酒を飲むことは殆どないけど、睡眠薬は飲んでるよ。もともと不眠症気味で、ぐっすり眠ることが出来ないんだ。旅行は嫌いさ。よそへ行くのが面倒なんだ。ロスとオーストラリアを何度も往復するのはゴメンだったからね。船旅なんてのは無理だから、我慢しなくっちゃ。アルバムを作る前の俺は、本当にだらけてたよ。規則正しい生活とは無縁で、昼間まで寝て、起きたら曲を書いたり、レコーディングしたり、夜は夜更かしをするって生活。家は郊外にあるから、退屈だったよ。アルバムを作ったことで、なんとかまともに戻れたと思う。そのうちツアーが始まったら、我慢出来るまで頑張るよ。今は平気だけど、でもこれもどれだけ続くかどうか。バンドを仕切ってるのは俺だから、バンドだって好きなように動かせるさ。もし俺がリタイアするようなことがあったら、その時は別のギタリストを雇えばいいだけだよ。

——ニルヴァーナやストロークスとよく比較されてるけど、それをプレッシャーだと思うことは？

クレイグ：そうでもあり、そうでもないな。俺らはおもしろいバンドなんだと信じてるし、みんなに是非聴いてもらいたいとは思ってるけど、でも"次のニルヴァーナ"ってレッテルはやめてほしいね。俺達はニルヴァーナやビートルズの影響は受けているけど、でもただのザ・ヴァインズなんだ。ストロークスとは全然似てないよ。まぁ、何も言われないよりかはマシだと思うけど。でも肝心なのはみんなに俺達の音楽を聴いてもらうことだね。

——CDに収録されている「1969」は、アルバムのキー・ソングであるにも拘わらず、ラストにシークレット・トラックとして収録されているね。なんでそうしたの？

クレイグ：最初はそうしようって考えてたんだ。でもCDはまだ完成したわけじゃないし、後からやっぱりちゃんと収録し直すことにしたんだ。もうシークレット・トラックにはしない。キー・ソングなんだからね。ビートルズやキンクスの時代からも大きな影響を受けてはいるけど、でも俺達が受けた一番大きな影響は、やっぱ'90年代の音楽だね。俺が受けてる'60年代の影響は、そうやって他のバンドが中間に入ってるんだ。

——曲を書く時は、他のメンバーと共同で書いているのかい？それともコンセプトをまとめた後、みんなからOKをもらうというやり方で進めている？

クレイグ：さぁ。俺達がレコーディングした曲に駄作はないと信じてるけど、でも時々、自分が書いた曲やそれをどうしたかってことを忘れてしまうこと

“次のニルヴァーナ”っていうレッテルはやめてほしいね。俺達はただのザ・ヴァインズなんだ

があるんだ。書いた曲をメンバーに見せても、みんながそれをどうすればいいのか面食らうってこともあるしね。というのも、書いた一部だけを持っていったり、2年前に書いた曲を持っていったりってこともあるから。いろいろ手助けはしてもらってるよ。パトリック（・マシューズ、bs.）はアイディアをまとめるのが得意で、すごく刺激的な意見を言ってくれる。彼の考え出したベース・ラインは、曲にマッチするってだけじゃなく、俺の曲を最高に引き立ててくれるんだ。デイヴもすごいよ。要はフィーリングだね。みんなの意見はちゃんと聞いてるよ。曲をはどうでもいいとすら思ってたし。でもアルバムが完成した今、ずっと考えてきたことから離れて、精神的に自由になれた。曲がいっぱいありすぎるから、誤ってたいしたことのない曲を選んでしまうんじゃないか？って不安だったんだ。これから出る2枚のアルバムは、もっと気楽な態度で作れると思う。早く作り始めたいと思ってるし、待たせることはないと思うよ。

——外国へ行くとホームシックになるだろ？

クレイグ：ああ。でも今はガールフレンドも一緒に来てるし、楽しいよ。大丈夫。あまり考えないようにしてるから。

——工場で働いた経験がないのに、どうして工場で働く曲を書いたんだい？

クレイグ：マクドナルドで働いていた頃のストレスが、インスピレーションになってるんだ。キンクスをよく聴くから、キャラの暗殺をしてみたんだよ。すごく単純なことだよ。曲作りが楽しくなってきたところで、工場で働く退屈な男を歌にしてみようと思ったんだ。でも曲自体はすごくハッピーで、子供じみた曲だよ。

——君もハッピー？

クレイグ：さぁ、分かんねぇや。

——でもガールフレンドがニコニコ笑って、イエスって答えてるよ。

クレイグ：今までよりはハッピーだな。もうマクドナルドでバイトすることもないしね。

——自分の暗い部分を曲にするのが好きなようだね。

クレイグ：曲が古いからな（1～3年くらい前に書かれている）。歌詞も今なら、もっとポエティックで洗練されたものが書けるんだけど。スタジオでそうした方がいいと思ったものについては、歌詞を変えたんだよ。今書いてる曲は、全然違う。昔の曲は皮肉っぽくって、幼稚だけど、マジメすぎてもない。前はギター・リフとメロディを先に書いてから、歌詞を書くってやり方だったんだけど、今は歌詞を最初に書いて、それから音楽を付けてていうやり方でやってるんだ。

——曲を書いている時、どれくらいの早さでスタイルを変えてるんだい？

クレイグ：実際にレコーディングをしてみるまでは、それがどんな風になるかはなんとも言えないんだ。でも最近の曲は前よりもシリアスな内容になってきてるよ。■



(L→R：パトリック、クレイグ、ライアン、ハミッシュ)

書いているのは自分だから、俺の意見が一番反映されてるし、最終的にどういう曲になるかというアイディアは俺が一番分かってると思う。ライアンのことも凄く尊敬してるよ。彼とはパトリックとプレイするようになる前、学生時代に一緒にバンドをやっていたんだ。彼もすごくバンドに馴染んでるよ。ステージでプレイするのも楽しいね。

——最初の頃、どうしてライヴが好きじゃなかったんだい？

クレイグ：アルバムを作るってことにとらわれすぎてたんじゃないかな。頭から離れなくて、後のこと

●直筆サイン

1. 来日ライヴも怒濤の大盛況！新作も待ち遠しいオアシスからノエル&リアムの直筆サイン！どちらが希望か明記すべし。 各3名計6名
2. いよいよ動き出したタクシーライド！来日取材でスティッカー&直筆サインをゲット！なんと取材の場となったハードロック・カフェのメニューにサインしてます…。 5名
3. 渾身の最新アルバム「ライフラインズ」を引っ提げて来日したa-ha。モートンからお宝生写真に直筆サイン頂きました！ 3名
4. ヴァインズからポラに直筆！ 2名
5. グー・グー・ドールズ 5名
6. ブライアン&スコット／ウィーザー 5名
7. ザ・コーリング 10名
8. アンドリューW.K. 5名
9. メスト 5名
10. プレイモ 5名
11. ブルー 5名



INROCK 愛読者プレゼント

今月のプレゼントは直筆サインがい〜っぱい!! オアシスやタクシーライド、そして新進ボーイズグループのブルーまでイン・ロックならではの超豪華ラインナップ！もちろん特製グッズやTシャツだってい〜っぱいです！

プレゼントの応募方法

○ハガキに右下の応募券を貼り、郵便番号（7ケタ）、住所、氏名、年齢、電話番号、希望するプレゼントの番号を明記し、必ず下にあるアンケートに答えて応募して下さい。（ハガキでないもの、応募券を貼ってないもの、アンケートに答えていないものは無効になります）

宛先：〒489-8567
愛知県瀬戸市西原町1-86
イン・ロック社ビル2F
（株）イン・ロック編集部
「愛読者プレゼント」係

★締め切りは7月15日（月）です!!
（当日消印まで有効）



●アーティスト・グッズ類

12. 待望のニュー・アルバム遂にリリース！レッド・ホット・チリ・ペッパーズから特製ポスター。5名
13. ハードロックの復権をかけて！闘うニッケルバックから、ジャパニーズ・スシもびっくりの2002年手巻きカレンダー！ 2名
14. PINKからロゴを象ったメタル・ネックレス。カワイイだけじゃないパンクロックなPINKの生き様が伝わる一品、首周りのアクセントにど〜かな？ 3名
15. 落馬骨折を押しての全米ツアー続行中！根性のお姉さまジュエルから特製ポストカード・セット！麗しくて涙が出るよ〜！ 3名
16. 一夜限りの超プレミア来日公演も大成功！ブリトニー・スピアーズからアルバム「ブリトニー」のオリジナル・ビニールバッグ。 5名
17. 無頼漢スリム・シェイディの新章始まる…！待望のエミネム最新作「ザ・エミネム・ショウ」からオリジナル・スティッカー。 10名
18. めちゃ熱かった来日公演も冷めやらぬメストからオリジナル・スティッカー。 10名
19. キャッチーでポップなパンク・チューンが魅力の最注目ニュー・カマー！シンプル・プランから特製スティッカー。 10名
20. サントラがグラミー年間最優秀アルバム賞をゲット！音楽ファンも要チェックアイテム「オー・ブラザー」DVDリリースを記念してレコード型マウスパッドをプレゼント！ 5名
21. ロック・セールス社の海外直輸入ポストカードをプレゼント！バックストリート・ボーイズ、ウエストライフ、インキュバス、イン・シンク、スリップノット、SUM41、リンキン・パーク、マリリン・マンソン、ボン・ジョヴィ、ストロークス、デスティニーズ・チャイルド、a1、ザ・コーリング、リンプ・ビズキットの中から好きなアーティストをセレクトしてね。 各3名計52名

●Tシャツ類

22. 「ネヴァー・ア・ダル・モーメント」リリースのトミー・リーからストリート・クロージング・ブランド「ローレット」とのダブルネームTシャツ！ロック×ストリートモダンの絶妙なバランス感覚がカッコいい激レア・アイテム、カラーはブラックorホワイト、サイズはL。 各2名計4名
23. NFGことニュー・ファウンド・グローリーから特製ロゴ入りTシャツ。サイケっぽいのから宇宙服っぽい（?）のまで色々あるんでチョイスは編集部にお任せ下さいね。 5名
24. 英席巻のスウィーディッシュ・ガレージ・ロック・バンド遂に日本上陸！ハイヴスから彼らのサウンドそのまんまのレトロでスタイリッシュなオリジナルTシャツ！ 5名
25. ディスタープドのロゴ入り真っ黒T。適度なヤサグレ感がナイス、サイズはM。 1名
26. ハードロック・カフェ横浜から、夏の日差しにバッチリ映えて大事なオツムをしっかり守るオレンジ色のロゴ入りキャップ！ 2名



●洋雑誌・洋新聞（各1名）

27. NME紙'02年3月30日号。ロストプロフェッツ、バッドリー・ドローン・ボーイ他。
28. NME紙'02年4月6日号。生まれ変わったリアム・ギャラガー：後光輝くグラビア&名言集。デーモン・アルバーン新境地、アレック・エンパイア他。
29. NME紙'02年4月13日号。全身これ商品!? ブリトニー・スピアーズ胸尻脚唇の有効活用法。アイドルワイルド、シュガー・ベイブス、プライマル・スクリーム、デーモン・アルバーン、ストロークス、ダヴズ他。
30. NME紙'02年4月20日号。NME特別企画／ロック50年史：オアシス、プライマル、レディオヘッド、ローゼス、U2、ザ・ヴァーヴ、ニルヴァーナ、マニックス、ビーズティーズ、R.E.M.他。
31. ROLLING STONE誌'02年3月14日号。リンキン・パーク：4P特集。ブリトニー・スピアーズ『ノット・ア・ガール』他。
32. ELLE誌'01年1月号。EX-オール・セインツの美姉妹ナタリー&ニコール5P特集＋リアムも登場！
33. COSMOPOLITAN誌'02年2月号。ブリトニー・スピアーズ：ブラック&ゴールドのゴージャス・グラビア！
34. CLEO誌'02年1月号。ブリトニー・スピアーズ：グラビア&インタビュー、ブリが表紙を飾った数々の雑誌も見られるウレシイ企画！
35. YM誌'02年4月号。シャキーラ4P、ピンク4P、フーバスタンク、グウェン・ステファニ／ノー・ダウト他。
36. YM誌'02年5月号。エンリケ・イグレシアス：犬と戯れるエンリケ素グラビア！ジェイコブ／O-TOWN、アッシャー他。
37. HOT STARS誌'02年3月9〜15日号。エンリケ、ロビー他ダーティ系イケメン特集。カイリー・ミノーグお尻特集。
38. HOT STARS誌'02年3月16〜22日号。ナタリー・インブルーリア：グラビア&インタビュー。
39. HOT STARS誌'02年3月23〜29日号。ステレオフォニックス：グラビア&インタビュー。
40. HOT STARS誌'02年3月30〜4月5日号。リアム・ギャラガー、マドンナ、ロビー・ウィリアムス他。
41. HOT STARS誌'02年4月6〜12日号。ダイド：グラビア&インタビュー、ブリトニー・スピアーズ、カイリー・ミノーグ他。
42. HELLO!誌'02年3月12日号。グラミー賞：バックストリート・ボーイズ、B・スピアーズ、デスティニーズ・チャイルド、C・アギレラ、ピンク、U2、イン・シンク、J・ロペス、N・ファータド他。
43. OK!誌'02年3月7日号。ブリット・アウォーズ：ウエストライフ、ダイド、S・マンバ、K・ミノーグ他。ヴィクトリア&デヴィッド・ベッカム7P特集。
44. OK!誌'02年3月28日号。破局!!ブリトニー・スピアーズ傷心の7P特集：M・ジャクソン、J・ロペス、R・ウィリアムス他。
45. OK!誌'02年4月11日号。独占!! ウエストライフ最新PV撮影現場に潜入！

イン・ロックVol.223アンケート

1.1番好きなアーティスト（1名、グループのメンバー個人でもOK）
2.1番好きなグループ（1グループ）
3.その他好きなアーティスト（2名まで）
4.その他好きなグループ（2グループまで）
5.今月号で面白かったページとその理由
6.今月号でつまらなかったページとその理由
7.取り上げて欲しい企画、または知りたいこと
8.よく購読している雑誌とその理由
9.イン・ロックの感想
10.R&B、ヒップホップ等のブラック・ミュージックの分野であなたが一番興味のあるアーティストは？（60ページより）
11.エミネム、korn、オアシス、レッド・ホット・チリ・ペッパーズ等、大物アーティストの新譜が多くリリースされますが、どのアーティストのアルバムを買いたいですか？
12.a.サッカーワールドカップをＴＶ等で観戦しましたか？ b.好きなサッカー選手は誰ですか？ c.イン・ロック社から出版された「サッカースター」を購入されましたか？（91ページ参照）

=イン・ロックVol.221愛読者プレゼント当選者（敬称略）=

★直筆サイン／リアム・ギャラガー、スリップ・ノット、エリック・マーティン、M2M他
静岡県：塚本　淳　愛媛県：山下千珠
三重県：水谷悠久　千葉県：箕輪徳子　他36名

★アーティスト・グッズ類／スリップ・ノット、ゴリラズ、ガービッジ、ブリトニー・スピアーズ他
神奈川県：佐々木裕美　岡山県：横山佳奈
兵庫県：光田衣里　岩手県：畠山佳久　他48名

★Tシャツ類／リンプ・ビズキット、ミッドタウン、パドル・オブ・マッド他
愛知県：片田香織　兵庫県：上野稚奈
静岡県：川合美栄　山梨県：飯島悟　他2名

★洋雑誌、洋新聞
千葉県：内記麻子　佐賀県：新田久美子
埼玉県：成田賀世　東京都：青木純香　他9名

〈提供〉EPIC インターナショナル、ワーナーミュージック・ジャパン、イーストウエスト・ジャパン、ビクター・エンタテインメント、BMGファンハウス、ゾンバ・レコーズ・ジャパン、ユニバーサル・ジャパン、ハードロック・カフェ名古屋、ハードロック・カフェ横浜（順不同）

Vol.223 応募券

DISCS
DISC, VIDEO and DVD
最新ディスク情報！

ヒーザン・ケミストリー
オアシス

PICK UP!



EPICインターナショナル
6月26日発売
EICP-111
￥2520（税込）

1.THE HINDUTIMES
2.FORCE OF NATURE
3.HUNG IN A BAD PLACE
4.STOP CRYING YOUR HEART OUT
5.SONGBIRD
6.LITTLE BY LITTLE
7.A QUICK PEEP
8.(PROBABLY) ALL IN THE MIND
9.SHE IS LOVE
10.BORN ON A DIFFERENT CLOUD
11.BETTER MAN
12.YOU'VE GOT THE HEART OF A STAR

●オアシス最高傑作は、バンド・エフォートを結集した1枚
今作「ヒーザン・ケミストリー」が出来た後、他はともかく日本に対するバンド側のガードは、信じられないくらい緩かった。うちにしたって合計6本もインタビューしているのである。その背景にあるのは、バンドに余裕があるってことだと思う。かつてないくらいメンバー間の関係がうまくいっていて、各自のクリエイティヴィティが出易い状況が出来上がっている。以前のように、他のメンバーの発言にビクつく必要もない。結果、長くインタビューに応じることがなかったリアムまでもが、レコーダーの前に座ってくれるのである。というか、今の彼にはマイクを向けられる理由がある。今作では3曲も自分で曲を書いているのだ。前作でも1曲書いているが、自分のテイストがモロに出過ぎて、レノンに似すぎていると、かなり叩かれたが、今回は兄ノエルからして絶賛する出来だ。その上、アンディとゲムもそれぞれ1曲づつ曲を提供している。いつの間にこのグループはこんなに民主的になったのだろう？ともあれ、ノエル自身がオアシス史上二番目の傑作と呼ぶ今作は、私的には最高傑作と呼べる充実した作品だし、「ヒンドゥ・タイムズ」の持つ独特な世界は、イラついた気分からワープさせてくれる、とんでもなく優れた曲である。反対に、今の恋人との至福の朝を曲にしたという「シー・イズ・ラヴ」は、あんまり…。アイディアがわき上がり、10分か何かで書き上げたというが、他の曲と較べるとシンプルすぎる気が。けど、ノエルって、見かけよりずっとロマンティストだったんだね。いや〜、音楽史上に残るかもしれないCDに、自分のことを書いた曲が入ってるなんて女の夢ですよ。最高！　（加藤有子）

お薦めナンバー：#1、#4

●2年振りの野蛮
オアシスから2年振りのご挨拶。しかし、不思議とそこにブランクを感じさせないところが彼らの存在感のデカさを物語ってるようでもあり。彼らのオフの間には、たとえばアメリカから端を発したヘヴィー／ミクスチャー・ロックの盛り上がりに反して、彼らが牽引してきたブリット・ロックの低迷があった。もちろん、オアシスのリリースがないこととシーンに元気がなくなったことが直接関係しているとは思えない。でもそれがなにか印象的なことのように思わされるほど、オアシスというバンドはブリット・ロックそのものといえるようなセンスと実力をもった希有なバンドなのだ。そして、そんな当たり前のことを新作で改めて感じさせられた。セックス・ピストルズとビートルズという、まさにブリット・ロックの陰と陽をルーツにもった彼らが、その本能のおもむくままに作り上げた極上のブリット・マナーがたっぷりと堪能できる。メロディーは大胆なほどキャッチーで、ギターはラフなエッジをしっかりと立たせている。このふてぶてしいまでのポップイズム。ブラーのデーモンがゴリラズやワールド・ミュージック、サントラなどでみずからの音楽的キャパシティーを拡げている姿を横目に、ノエルはひたすらその才能をロックンロールにのみ、おしげなく注ぎ込んだ。サイドワークに気をそがれることなく、バンド・サウンドこそを大切に構築させていくところは実にノエルらしく、オアシスらしいと思う。だからこそ生まれた正真正銘のブリット・ロックがここにはあるのだ。奇しくも"英国一影響力をもったミュージシャン"デヴィッド・ボウイの新作タイトルとも重なる"Heathen（野蛮）"というキーワード。オアシスこそは、ロックという野蛮な生命力を手に入れた錬金術師なのだ。新作がそれを証明している。（村尾泰郎）

お薦めナンバー：#2、#4、#5、#9

ラヴヘイトトラジディ
パパ・ローチ



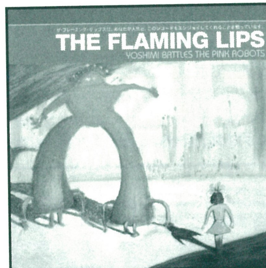
1.M-80
2.LIFE IS A BULLET
3.TIME AND TIME AGAIN
4.WALKING THRU BARBED WIRE
5.DECOMPRESSION PERIOD
6.BORN WITH NOTHING, DIE WITH EVERYTHING
7.SHE LOVES ME NOT
8.SINGULAR INDESTRUCTIBLE DROID
9.BLACK CLOUDS
10.CODE OF ENERGY
11.LOVEHATETRAGEDY
12.GAUGE AWAY
13.NEVER SAID IT
14.NAKED IN FRONT OF THE COMPUTER

ユニバーサル・インターナショナル
6月21日発売
UICW-1024
￥2548（税込）

●巻き返しすぎ
全米との温度差が最も顕著になってしまった感もあったパパ・ローチの新作が遂に完成。思えば昨年の来日の中止が決定的な要素だったのだが、この新作を聴くにつけ、実は今回の巻き返しが上手く行けば逆にバンドにとって有効なのではないかと思えてくる。ファースト・アルバムが鳴り物入りでリリースされたとき、俺も勿論1リスナーとしてアルバムを聴いたのだが、聴けば聴くほど"借り物っぽさ"が鼻についてしまって、何度も聴き返すということを全然しなかった。勿論ファースト・アルバムから彼らをサポートしていたファンにとって来日キャンセルは非常に残念だったことに間違いはないのだが、本作でのファーストを圧倒的に凌駕する曲のクオリティは、彼らを"ワン・オブ・ゼム"から"パパ・ローチはこれ"という立場に引き上げることに成功している。より沢山のオーディエンスを巻き込むことが可能だろう。早くも全米ラジオでヘヴィにOAされている「シー・ラヴズ・ミー・ノット」を始めとして、どの楽曲にも非常に印象的なフックが設けられていて、1曲目から最後まで一気に聴き終える事が出来た。"解散を考えていた"というほどの前作の大成功に伴うプレッシャーやバンドの人間関係の変化を乗り越えてこのニュー・アルバムが完成したのは本当に素晴らしいことだと思う。あとは日本に来て、そのパフォーマンスを存分に炸裂させるだけだよね。（Jidori）

お薦めナンバー：#9

ヨシミ・バトルズ・ザ・ピンク・ロボッツ
ザ・フレーミング・リップス



1.FIGHT TEST
2.ONE MORE ROBOT (SYMPATHY 3000-21)
3.YOSHIMI BATTLES THE PINK ROBOTS Pt.1
4.YOSHIMI BATTLES THE PINK ROBOTS Pt.2
5.MORNING OF THE MAGICIANS
6.EGO TRIPPING AT THE GATES OF HELL
7.ARE YOU A HYPNOTIST?
8.IT'S SUMMERTIME (THROBBING ORANGE PALL BEARERS)
9.DO YOU REALIZE?
10.ALL WE HAVE IS NOW
11.APPROACHING PAVONIS MONS BY BALLOON (UTOPIA PLANITIA)
12.YOSHIMI BATTLES THE PINK ROBOTS Pt.1 (JAPANESE VERSION)

ワーナー・ミュージック
7月10日発売
WPCR-11253
￥2400（税込）

●さらに輝きを増したサイケデリア
まさに待望の新作。アメリカの誇る21世紀最強のサイケデリック・ロックンロール・バンド、ザ・フレーミング・リップスの新作は、そのタイトルからしてフツーじゃない。「ヨシミ・バトルズ・ザ・ピンク・ロボッツ」だもの。しかもその"ヨシミ"っていうのが、ボアダムズの紅一点、Yoshimi P-Weっていうんだから！ウェイン・コインの脳ミソが黄昏のなかでグルグル回っているのが手に取るようにわかるようだ。"ヨシミとピンク・ロボットとの闘い"という物語をコンセプトに、ザ・フレーミング・リップスのファンだった日本人女性の病死というノンフィクションが渾然一体となって紡ぎ出される歪みまくった音響空間。そこにバンド初期のようなひずんだギターはないけれど、ノイズを通過したところに生まれる純粋で光に満ちた世界がある。前作「ソフト・ブレティン」であらゆるエフェクト、コラージュといった実験を駆使して立体的なサウンドを生み出した彼らの、第2章と言えるのがこの新作なのだ。ここには前作よりも濃厚に、ウェインが抱えているメランコリアが滲みでているし、はしばしにはダークな影も見え隠れしている。しかし、アルバムを聴き終わるころには、その霧はすべて晴れて、新しい季節の訪れを感じさせてくれる。とにかくさりげなくも感動的な一枚。待った甲斐ありすぎ!!（村尾泰郎）

お薦めナンバー：全曲

スティックス・アンド・ストーンズ
ニュー・ファウンド・グローリー

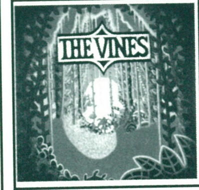


ユニバーサル・インターナショナル
発売中
UICC-9004
￥2079（税込、2カ月限定価格）

●誰がために栄光は
良心的なパンク・バンドを生み出すことで定評のあるレーベルDrive-Thru出身、NFGのメジャー2作目。非常にイキの良いサウンドと"青春パンク"と資料にもある、日本人ウケしそうなメロディが満載のアルバムに仕上がった。今年のWarped Tourにも参加、大々的にブレイクしそうな予感を感じさせる。Blink182の弟分、という扱いも早くも卒業できそうな雰囲気。この手のバンドはライヴが命、ということで来日祈願ですな。（Jidori）

お薦めナンバー：#3

ハイリー・イヴォルヴド
ザ・ヴァインズ



東芝EMI
6月26日発売予定
TOCP-66019
￥2548（税込）

●遠くになりにけり、あの時代
シドニー出身の4人組バンド、ザ・ヴァインズのデビュー作。もともとイギリスでのブレイクがきっかけでその名を知られるようになったのだが、確かにイギリス受けしそうな感じのちょっとデカダン入った感じのロック。もろにニルヴァーナじゃないの??とか勘ぐる雰囲気の曲も多いけど、逆に今は新鮮に聴こえるから不思議だね。もう'90年代も"遠い昔、憧れの時代"とかになんのかな…サマーソニックに来日するそうなので要チェック。（Jidori）

お薦めナンバー：#1、4

GLOW
ケミカル・ブラザーズ、ダフト・パンク、ゴリラズ他



東芝EMI
6月26日発売
TOCP-66022
￥2000（税込）

●どんなカタチ？
"02年のロックのカタチ"というコンセプトの元に編集されたロック、ダンス・コンピレーション。2000円という値段も良心的だね。サマーソニック、フジ・ロック・フェスという2大フェスティヴァルに出演するアーティストの曲も沢山収録されているので予習用にも良いかも。どの会社も激しくコンピに力を入れている中、どれだけ他と違う"売り"が存在するのかが重要なのだけど、こういうコンピって意外と少ないから良いかも。（Jidori）

お薦めナンバー：コンピですから…

B2K
B2K



EPICインターナショナル
7月3日発売
EICP-103
￥1900（税込・期間限定特別価格）

●ふたり足しても俺より下…
しかし、全員16歳だってよ…と嘆いていても始まらないが。Epicレコーズのオーディションで発掘された4人組、ティーンR&Bの急先鋒B2Kのデビュー・アルバム。早くもアメリカではBillboard誌での音楽的な評価は勿論、ティーン向けの雑誌でも特集号が発行されるなど、破竹の快進撃を見せている。本人たちの努力も勿論だが、周囲のスタッフの盛り上げも上手いんだろうね。読者のリアクションはいかがなものか、要注目である。（Jidori）

お薦めナンバー：#2